

あんしん

改善活動で輸送品質向上

指導エキスパート養成も

【沖縄】シンバホールディングス(安里繁信会長兼社長兼CEO)最高経営責任者、沖縄県浦添市)の中核物流企業あんしん(安里亨英社長、同)は、グループ企業と一体で「+1(プラス) 5%生産性改善」を共通目標に掲げ、改善活動に取り組む。日本ロジスティクスシステム協会(JLIS、西田厚聡会長)が今月行う全日本物流改善事例大会への出場を目指す。3、9月には改善事例発表会を開催。少人数チームによる活動や事例発表会を通じ、社員一人ひとりの改善に対するモチベーションを高め、輸送品質のさらなる向上を狙う。

あんしんは、沖縄県を拠点に航空・海上輸送を駆使してサードパーティー・ロジスティクス(3PL)事業などを展開。事業領域の拡大を踏まえ、従業員が自発的に改善、業務効率化に取り組む「現場力」の強化に努めている。全社的な改善活動を通じ、本土での事業展開や物流のグローバル化に対応できるスタッフ

を育成する。2009年2月、雨宮路男・専務改善統括が中心となつて改善統括部を立ち上げ、改善活動の組織体制やスケジュール、部門ごとの問題点を協議する改善研修に着手。同年4月から社員参加の改善活動施策をスタートさせた。

空輸(安里亨英社長、那覇市)、飲食・コンビニエンスストア事業のショップス(同、浦添市)の2社を含めて、営業所や部門ごとに計49チームを編成。チームごとで改善活動を競い合っている。毎週1回、チーム単位で改善ミーティングを行う。従業員が自ら見つけた現場の問題点をテーマに、問題

あんしんが入居するシンバネットワークビル



発見・真因追求・目標設定・施策立案・実行・評価・検証・標準化の改善サイクル

ルを実践する。具体的には、時間経過での作業フロー作成や現場の数値化と分析、発表資料の作成、計画の策定と検証など作業を毎週、繰り返し行うことで改善活動のノウハウを体得していく。各チームのリーダーは社内で設けた改善マン研修を受け、改善活動を指導す

るエキスパートとして養成。さらに、各事業部の責任者8人が毎月、本社で戦略ミーティングを開き、改善情報を横断的に共有する。昨年9月4日、浦添市の国立劇場おきなで第1回改善事例発表会を開き、選ばれた10チームが発表。荷主企業や改善活動に関心が高い一般企業の関係者80人を含む250人が熱心に耳を傾けた。

あんしん館チームによる家電量販店向け物流効率化の成功事例「作業見直しによるムダ削減」が1位を獲得。初の大会は社員の改善活動に対するやる気を引き出し、取引先にはあんしんグループへの信頼感を醸成した。雨宮氏は「問題に気付いて改善し、その成果を共有。さらに次の改善を目指す」という現場活性サイクルのレベルを上げていくには、改善活動の努力と成果を社内外で評価、奨励することが重要。改善活動を通じて、あんしんの輸送品質と生産性を高め、グループから物流を変える「人財」を多数輩出したい」と話している。

(上田 慎二)